

各 位

令和8年度稲作情報 第6号について

このことについて、送付しますので業務及び水稻栽培の参考にしてください。

令和8年度 稲作情報 第6号

唐津農林事務所 東松浦農業振興センター長

1 気象概況(観測点:唐津アメダスデータ)

※表記方法:6 半旬別(1ヶ月を6 分割。1 半旬は1~5 日となります。)

気温:平均 降水量・日照時間:合計

※平年値:平成22年~令和2年(11か年)の平均値

| 月 | 半旬 | 平均気温 (℃) | | 最高気温 (℃) | | 最低気温 (℃) | | 降水量 (mm) | | 日照時間 (h) | |
|---|----|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | | 平年 | R8 | 平年 | R8 | 平年 | R8 | 平年 | R8 | 平年 | R8 |
| 5 | 4 | 19.4 | 21.8 | 24.3 | 29.7 | 15.0 | 15.5 | 22.2 | 0.5 | 35.5 | 54.1 |
| | 5 | 19.9 | 21.0 | 24.8 | 25.0 | 15.7 | 18.4 | 17.8 | 10.5 | 34.0 | 22.5 |
| | 6 | 20.4 | 22.6 | 25.0 | 28.1 | 16.5 | 18.3 | 18.5 | 24.5 | 37.1 | 35.5 |
| 6 | 1 | 20.9 | 21.4 | 25.2 | 25.3 | 17.3 | 18.8 | 18.2 | 28.5 | 27.3 | 7.4 |
| | 2 | 21.4 | 21.1 | 25.4 | 25.2 | 18.2 | 17.4 | 27.2 | 13.5 | 24.5 | 31.2 |
| | 3 | 21.9 | 22.0 | 25.7 | 27.9 | 19.0 | 17.3 | 40.5 | 0.0 | 22.3 | 40.1 |

6 月 2 半旬からの平均気温は平年並みで推移した。6 月 4 日に梅雨入りが発表されたが、降雨のない日が多く、6 月 2 半旬の降水量は平年の 5 割程度で、日照時間は平年の 1.3 倍と長かった。また、6 月 3 半旬は降雨がなく、日照時間は平年の 1.8 倍と長かった。

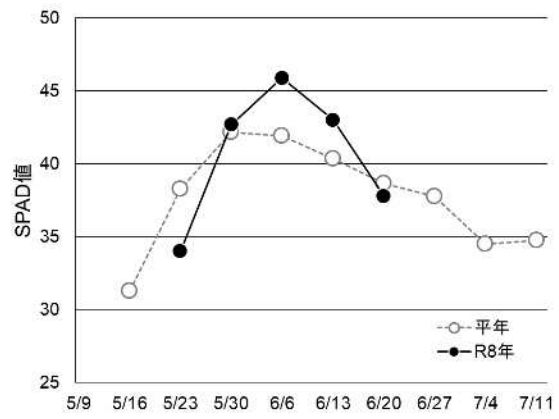
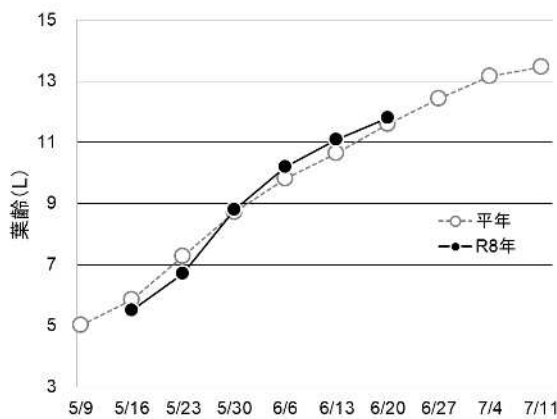
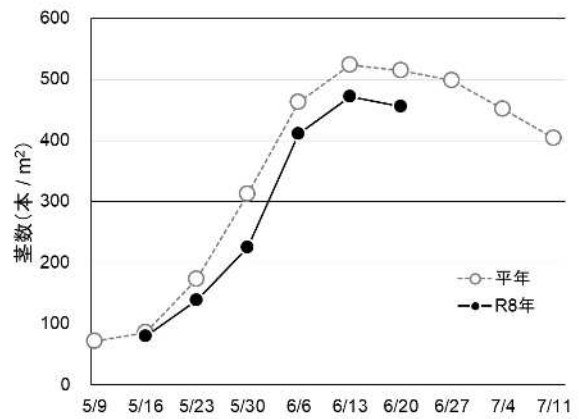
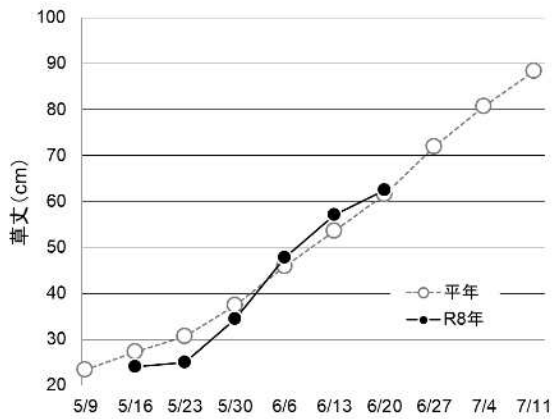
2 生育状況

上場コシヒカリ情報田調査結果 鎮西町潟 4 月 24 日移植 18.3 株/m²(60 株/坪)

(6月16日調査結果)

| 項目 | 本年 | 前年 | 平年 | 前年比・差 | 平年比・差 | 備考 |
|-----------------------|------|------|------|-------|-------|------|
| 草丈(cm) | 62.5 | 58.1 | 61.6 | 108 | 101 | 平年並 |
| 茎数(本/m ²) | 456 | 546 | 514 | 83 | 89 | 少ない |
| 葉齢(L) | 11.8 | 11.0 | 11.6 | 0.8 | 0.2 | 平年並 |
| 葉色(SPAD) | 37.8 | 45.6 | 38.7 | -7.8 | -0.9 | 平年並 |
| 葉色(葉色板) | 3.2 | 4.5 | 3.5 | -1.3 | -0.3 | やや淡い |

※平年値:令和元年~令和7年までの値から最高・最低値を除いた平均値



草丈は平年並みで推移している。茎数は最高分げつ期を経過したが、平年の 9 割と少ない。葉色 (SPAD) は前回調査まで濃く推移していたが、平年並みまで低下した。

6月16日時点の幼穂長は1~2mm程度で、幼穂形成始期を迎えている。出穂期は平年並みの7月9日となる見込み。

3 今後の管理について

(1) 幼穂形成始期を迎えた圃場では間断灌水に移行する。

- ・4月中旬に移植された多くの圃場でまもなく幼穂形成始期を迎えています。幼穂形成期から穂ばらみ期は水を必要とするため、白乾状態とならないように間断灌水を行いましょう。中干しが十分でない圃場では、落水期間を長くして地面を固めてください。
- ・5月上旬以降に移植され、有効茎が確保された圃場では、中干しに移りましょう。中干しについては稲作情報第5号を参照してください。



間断灌水

(2) 病虫害防除

① いもち病

- ・曇天雨が連続といもち病が発生しやすくなります。常襲田では田回りを行い発生に注意してください。進展型の病斑が確認された場合は、収穫前日数に留意しながらオリブライト 250G 等で臨機防除を行ってください。



いもち病(進展型)

②斑点米カメムシ類

- ・畦畔雑草は斑点米カメムシの増殖・飛来源となります。出穂 10 日前まで(6 月末まで)に除草を行いましょう。出穂直前以降に除草を行うと、畦畔に生息する斑点米カメムシが圃場内に移動し被害が助長されます。
- ・出穂 10～15 日後(乳熟期)にスタークル等による薬剤防除を行ってください。発生が多い場合は穂揃い期と乳熟期の 2 回防除を実施してください。

③イネカメムシ

- ・近年イネカメムシによる被害が増加しています。特に周辺より出穂が早い、または遅い圃場に飛来が集中するため、発生状況を観察し、早期発見に努めてください。発生がみられた圃場では、斑点米カメムシ類を対象とした上記防除に加え、出穂期の防除を徹底してください。



ホソハリカメムシ



クモヘリカメムシ



アカスジカスミカメ



イネカメムシ

(3) 施肥管理

- ・下位節間(第 4 節間)の伸長は出穂 23 日前頃から始まり、18 日前頃に最盛期となります。この時期に穂肥を施用すると節間伸長が助長され倒伏のおそれがあります。「コシヒカリ」のような倒伏に弱い品種は、この時期を経過した出穂 18～16 日前が穂肥施用時期です。

(参考:情報田平年値)

移植期:4月22日 出穂期:7月9日 穂肥施用時期:6月21～23日

- ※圃場毎に生育ステージ・葉色・生育量が異なるため、下記穂肥診断基準を目安に穂肥施用時期と施用量を決定してください。

コシヒカリの出穂前日数と幼穂長の関係

| 出穂前日数 | 26 | 23 | 20 | 18 | 15 | 12 |
|-------------|-----|-----|------|-------|-------|-------|
| 幼穂形成始期からの日数 | 0 | 0～3 | 3～6 | 6～8 | 8～11 | 11～14 |
| 幼穂長 (mm) | 1 | 1～3 | 8～12 | 15～20 | 25～30 | 30～ |
| 草丈 (cm) | ～72 | ～75 | ～78 | ～80 | ～83 | 83～ |
| 穂肥施用時期 | | | | ←→ | | |

※幼穂長15～20mmの時(出穂18日前頃)が穂肥施用時期。

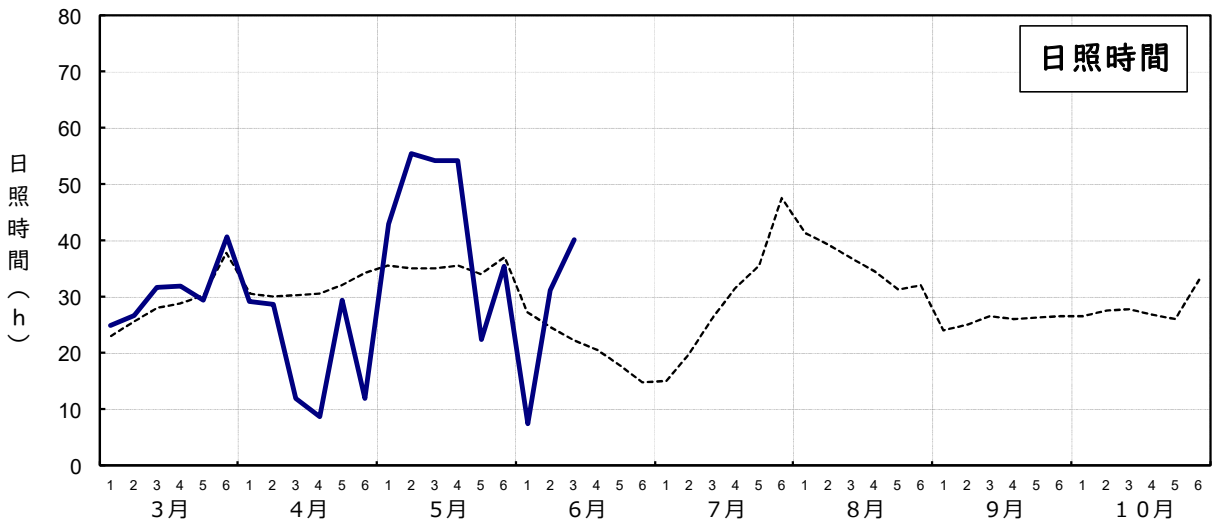
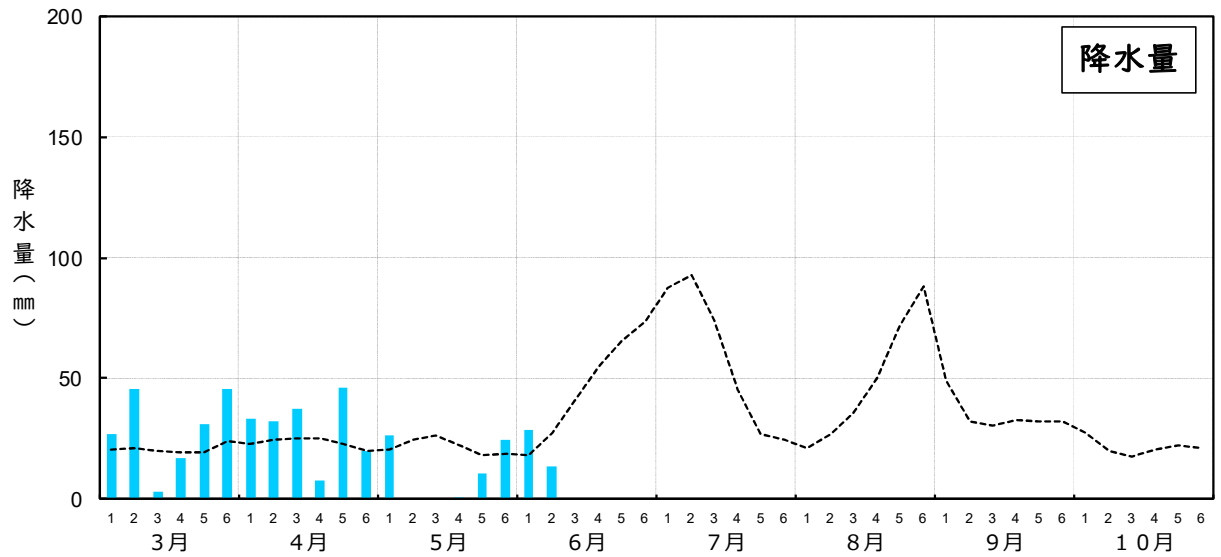
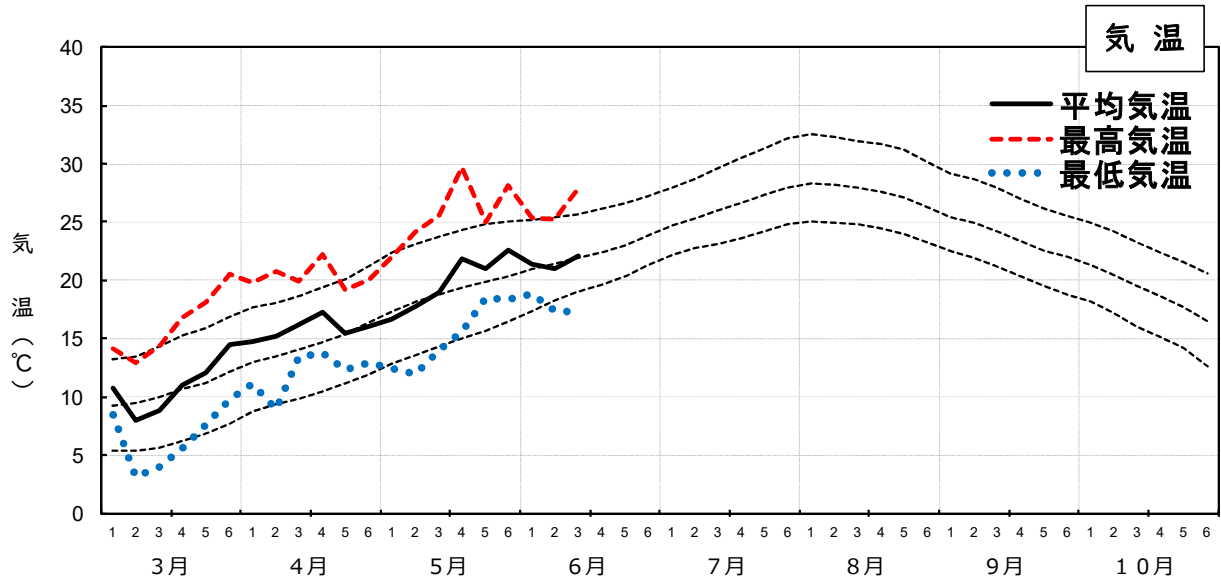
穂肥診断をした時の幼穂長が1mmの場合、その7日後を目途に穂肥を施用する。

コシヒカリ穂肥診断基準(穂肥施用時)

| 葉色 | 葉色板 | | SPAD | 幼穂長 (mm) | 草丈 (cm) | 出穂前 日数 | 施用量 有機入りBB454 |
|----|---------|---------|-----------|-------------|------------|-----------|------------------|
| | 群落 | 単葉 | | | | | |
| 淡い | ～3.0 | ～3.5 | ～34.0 | 2 | ～75 | 24～25 | 15kg/10a |
| | 3.0～3.3 | 3.5～3.8 | 34.0～36.0 | 5 | ～78 | 22 | |
| 標準 | 3.3～3.7 | 3.8～4.2 | 36.0～39.5 | 15 | ～80 | 18 | 7～10kg/10a |
| 濃い | 3.7～ | 4.2～ | 39.5～ | 15～ | 80～ | ～18 | 施用しない |

- (例) 穂肥施用時期の葉色(SPAD)が36.0～39.5、草丈が80cm以下であれば、有機入りBB454を10kg/10a施用する。

令和8年産 水稻作付期間気象図 アメダス観測値(唐津)



注) 平年値: 平成 22 年～令和 2 年の平均値